

相鉄線歩き旅 2023



2023年5月、6月

旅のチカラ研究所 植木圭二

5月の大型連休の真っ只中、横浜駅から海老名駅までの相鉄（相模鉄道）の沿線を友人と日帰りの歩き旅をしてきた。そして6月、いずみ野線を歩き追記した。

■横浜から歩く

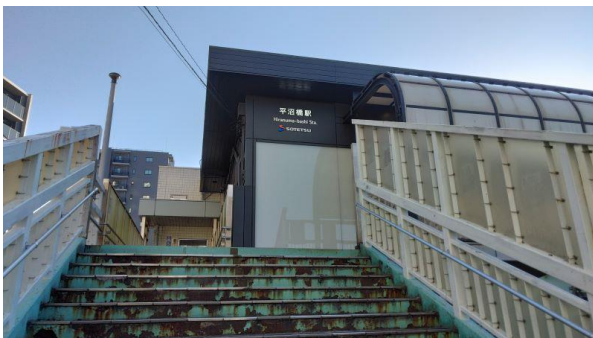
連休が始まって友人から連絡がきた。それは「連休中にどこか行かない？」というもので、私は「何も予定を入れていないからいつでも」と返して、日程も場所も直ぐに決まった。

旅のプランは連休中なので混雑を避けて近場を選び、横浜駅から海老名駅までの相鉄本線の沿線歩き旅とした。この区間の相鉄線営業距離は24.6kmだが、線路は歩けないので多分30km位になる。このプラン最大のメリットは途中でリタイアしたくなれば電車に乗れば良い。

その友人と私とは昔からの長い付き合いで、よく一緒に飲みに行くので私が酒の師匠と仰いでいる。よってここでは“師匠”としておこう。

朝6時、横浜駅を出発する。師匠は事前に道を調べていたようで最初は帷子（かたびら）川沿いに歩けば大丈夫だと胸を時張っている。私の記憶では横浜駅と平沼橋駅はかなり近いので「線路沿いを歩いた方がいいかも」と言ったとたんに、師匠は「しまった、行き過ぎた」と叫んでいる。慌てて約30m戻り、最初の平沼橋駅に到着する。

平沼橋駅も隣の西横浜駅も相鉄線以外にJRの東海道線、横須賀線、貨物線が並行して走っており、駅舎を造るスペースがない。そのため線路の上に歩道橋のような橋を架けてその上に駅舎がある。このような駅は珍しい、少なくとも田舎では見かけない。



【平沼橋駅 まるで歩道橋】



【西横浜駅 下に線路が見える】

和田町駅にやって来る。師匠はそろそろ水分を補給したいというので駅前のコンビニエンスストアに立ち寄る。

しかし師匠の言う水分補給とはビールのことらしく、缶ビールを買おうとしている。私が「実は、冷えた缶ビールを持ってきているから」と小声で言うと、「じゃあ、そこで飲もうか」と言って師匠は店内のイートイン・コーナーの方を指差している。早速おにぎりを買って、あまり店員の目に留まらないようにイートインの隅っこの席に陣取る。

持ち込んだ缶ビールを「プシュッ」と開けて本日最初の乾杯をする。まだ7時前、歩き始めて1時間も経っていないが、まあいいか。

喉を潤して再び歩き始める。

相鉄線は横浜駅から上星川駅付近までは駅と駅の間隔が狭い。ということでトントン拍子に歩き旅が進んでいるように感じられる。

上星川駅の次の西谷駅にやって来る。西谷はその名が示すように西にある谷で、その次の駅が鶴ヶ峰駅なので峰になっている。ということは谷を越えて峰に向かう。確かに何となく坂を下って登っていくような道が続く。

二俣川駅は小さな2つの川が合流する場所にある。だからこの一帯の地名を二俣川と言うのだろう。今は駅前の駐車場や道路などで上から蓋をしている部分が多いが、所どころ小さな川が見え隠れしている。

希望ヶ丘駅、三ツ境駅を過ぎると瀬谷駅があり、駅を少し過ぎると横浜市と大和市の境界になっている境川が流れている。「何て分かりやすい名前なんだ」と師匠がつぶやいている。

この辺りの境川は護岸工事によってコンクリートに囲まれた川になっているが、昔はこの一帯を流れる緩やかな川だったのだろう。それは瀬谷の瀬という漢字は、水が浅く人が歩いて渡れるような川を示すもので、コンクリートの境川の周りにはなだらかな谷になっている。

■大和駅

11時を過ぎた頃、大和駅付近のプロムナードにやって来る。このプロムナードは地下を走る相鉄線の線路の上なので今回の歩き旅では初めて線路の真上を歩くことになる。

かつて大和駅は地上を相鉄線が走り、その上を小田急江ノ島線が最低限の高さに線路を上げて交差していた。そのため街は大和駅を中心に市街地が4つに分割されていた。しかし1994年に相鉄線が地下に潜り、小田急線がより高い高架になって今の形になった。

相鉄線が地上を走っていた理由は相鉄線の方が小田急線よりも先に開業したからで、相鉄線は1926年に厚木駅から二俣川駅を開業し、その3年後に小田急の西大和駅が開業した。

1944年に小田急線西大和駅は相鉄線との乗換駅になったので小田急線も大和駅に改称された。

駅の歴史ついでに旅行記「相鉄沿線の旅 2020」で書いた相鉄線の歴史を簡単に書いておく。

1917年に相模鉄道と神中（じんちゅう）鉄道の2つの会社が設立された。大正から昭和にかけてこの2つの鉄道会社は別々に開業、延長していった。相模鉄道の路線はほぼ現在のJR相模線、神中鉄道の路線はほぼ現在の相鉄線になった。1943年に相模鉄道が神中鉄道を買取り、相模鉄道は61.8kmの線路を持つ鉄道会社になった。

ところが1944年太平洋戦争のために相模鉄道路線の茅ヶ崎～橋本間が国に強制買収され、旧神中鉄道路線のみが残された。結局現在は相模鉄道の名前と旧神中鉄道の路線だけを受け継いだ。

大和駅で昼食にする。私たちは駅前の中華料理屋に入り、早速生ビールと餃子を注文し乾杯する。本日は晴れていてかなり暑いから、生ビールが火照った体に染みわたっていくのがよく分かる。至福の時というのはこういうことを言うのだろう。

師匠と私は労をねぎらいながら、いや、ねぎらうほど労してはいないか。とにかく生ビールをもう一杯、そして中華麺を注文する。再び至福の時を味わう。

何となくそろそろ出発しようかという雰囲気が漂いはじめて店を後にする。この出発のタイミングを“あうんの呼吸”と言うものだろう。

■終点の海老名駅へ

大和駅から海老名駅までは相鉄線の営業距離は7.2kmなので、全線24.6kmの3割程度になる。従って約7割の行程を消化したことになる。そして残った3割の中間にさがみ野駅がある。

実は昔は大和駅～相模大塚駅～かしわ台駅～海老名駅だった。相模大塚駅とかしわ台駅間はそれなりの距離があり住民は不便を強いられていた。そこでかしわ台駅の相模大塚駅寄りに、かしわ台駅東口を作った。ただしこの東口はホームから300m以上も離れている。しかしそれでも不便なので、その中間に1975年さがみ野駅を開業させた。

かしわ台駅東口は今もそのまま存在しており、私たちはその東口にやって来る。そして駅の中を通らずに反対側の西口まで道なりに歩き、13分で西口に到着する。駅の構内を歩いても数分かかりそうだ。この遠い東口への距離は日本一だと聞いたことがある。



【かしわ台駅東口】



【かしわ台駅西口】

かしわ台駅から海老名駅に行く途中に小高い山があり、線路は切通しのような場所を走っているが、線路脇は歩けないので遠回りを強いられる。そしてようやく海老名駅に到着する。

海老名駅の東口に隣接する大商業施設ビナウォークの中を歩いていくと、連休中なので多くの人が出ている。それも若い人が多いのが特徴的だ。近年、海老名市は子育てで人気急上昇の街だと実感する。

海老名駅には東口のビナウォーク以外に西口にはララポート海老名もあって、どちらも賑わっている。私が思うには海老名駅は乗降客数では横浜駅には及ばないが、駅周辺の商業施設に遊びに来る人数では決して負けていない。

駅に向かうプロムナードの至るところでミュージシャンが路上ライブをやっている。ここは人気音楽グループ「いきものがかり」が無名時代にライブをやっていたところなので、その後を追いかけるように多くの若手ミュージシャンが路上ライブをしている。

■完歩の後

海老名駅の時計の針は2時半を示しており、朝6時に出発したのでおよそ8時間半かけて相鉄線沿線を歩いた。歩数計は約45000歩を示しており、おおよそ30kmを歩いたことになる。

45000歩を歩いた足のダメージの回復と、本日は暑かったので汗を流すためにスーパー銭湯に立ち寄る。歩き旅後の入浴は恒例行事になっており、当たり前のように運動の後の温泉入浴は実に気持ちが良い。若干の足の痛みは小一時間の入浴でかなり回復することができた。

スーパー銭湯を出て、夕食兼打ち上げと称して食堂に入る。

長距離を歩き、そして温泉入浴の後の生ビールは格別に美味しい。そのため店員が持ってきた生ビールは瞬く間に飲み干される。もちろん師匠の方が早く空になる。お代わりを注文し2杯目が来るが、またしても師匠の生ビールの方が早く空になっている。

私が「さすが師匠、早い！」と言うと、師匠は天井の方を指差して「あのエアコンの風がこのテーブルのこの辺りに当たるので早く蒸発するようだ」と言っている。このまま飲んでいると店のエアコンのせいにして、店員にクレームをつけそうな勢いだ。

空腹も概ね満たされてきたので夕食兼打ち上げを終えて、私たちは店を出る。

そしてもう一軒、今度は反省会と称して飲み屋に入る。打ち上げと反省会とがどう違うかわからないが、そんなことはどうでもいいのだろう。

もはや45000歩の歩き旅の話はしておらず、反省会はどこにいったのか。

反省会を終えて店を出る。もう一軒、次回の作戦会議をやろうかなどと言いながら、店を探しながら散策する。

数分歩いて、私も師匠もお互いの顔を見合わせて「次回の作戦会議は、本日はやめておこう」と意見が一致する。口にこそ出していないが、ここで次回の作戦会議をしてしまうと次に会って飲む口実がなくなるからだろう。

これもまた“あうんの呼吸”というものかもしれない。

■いずみ野線を歩く

約1カ月後、いずみ野線を歩く。

相鉄線は本線以外にいずみ野線という線路が二俣川駅から湘南台駅に延びている。営業距離は11.3km、半日程度で歩くにはちょうど良い。実は前回師匠と別れる際に「いずみ野線が残っているね」という話をしていた。

そして梅雨入り目前の本日、雨の天気予報が晴れになったのをこれ幸いに、朝起きて私は師匠に「今日、いずみ野線やろうか」と連絡して即座に決行が決まった。集合時間は二俣川駅10時となった。

いずみ野線は戦前からある相鉄本線とは違って、1976年に開業した。最初は二俣川駅～いずみ野駅、その後1999年に小田急湘南台駅まで繋げた。沿線は相鉄が開発した比較的新しい住宅地や店舗が展開して、お洒落な街並みになっている。それゆえだろうこの沿線は 트렌ディドラマのロケ地に使われることが多い。都心から近く撮影には向いているのだろう。

その比較的新しいいずみ野線沿線には歴史など関係ないのだろうと思って歩き始めると最初の駅は南万騎が原駅だ。そしてこの“万騎が原”の地名は古く鎌倉時代に遡る。昨年放送されたNHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に出てきたので偶然にも私は知っていた。

それは、鎌倉幕府の重臣だった畠山重忠は頼朝の死後北条氏に謀られて1205年に「鎌倉一大事」の報に菅谷（埼玉県）から134騎で鎌倉に向かう途中、二俣川を挟んで北条軍1万騎余と戦い、一族郎党ことごとく殺された。万騎が原の地名はこの時の北条軍の軍勢の数に由来しており、その戦は「二俣川の戦い」と呼ばれている。何とも深い戦いの痕があった。

南万騎が原の次に駅は緑園都市駅、駅近くにはフェリス女学院があり、お洒落な街が広がる。女子大生らしき多くの若い女性たちとすれ違い、師匠も私もルンルン気分で行く。

次の弥生台駅は“台”という名前どおり高台にある。それもかなりの高台で、必死に坂道を登り駅に到着する。実に変化に富んでいる。

いずみ野駅前の中華料理店で昼食をとる。一杯320円という生ビールと定食を注文し、乾杯して飲み始める。少しして師匠がエアコンの吹き出し口を見始める。私は条件反射で「すみません、生ビール2杯追加」と中年おばさんのウエイトレスにお願いする。いかにも主婦の昼間のパートタイマーという感じがするが、そのおばさんの笑顔がなかなか良い。

燃料補給も終わり再び出発、いずみ中央駅、ゆめが丘駅にやって来る。

ゆめが丘駅前では大型商業施設の建設工事が行われており、看板を見ると2024年夏開業と書かれている。この商業施設開発のことは先日テレビのニュース番組で知っていたが、実に巨大な施設だ。実はこのゆめが丘駅の近くに横浜市営地下鉄の下飯田駅もあり、その2つの駅の間に建設されている。

13時47分湘南台駅に到着する。10時に出発したから今回は4時間弱で歩いたことになる。昼食の時間を除けば約3時間、営業距離11.3kmだから、そんなものだろう。半日程度でのウォーキングにはもってこいかもしれない。

いつものようにスーパー銭湯で入浴、そして打ち上げで本日は終了となる。反省会も次回作戦会議もなく、平穩無事に帰宅する。

■旅の記録

相鉄線本線（横浜～海老名）の実施は2023年5月4日（木・祝）の日帰り、その行程を以下に示す。

5時59分横浜駅集合、6時00分横浜駅出発、6時13分平沼橋、6時34分西横浜、6時43分天王町駅着、駅前のコンビニで朝食、7時37分星川駅、7時49分和田町駅、8時01分上星川駅、8時27分西谷駅、9時02分鶴ヶ峰駅、9時32分二俣川駅、9時55分希望ヶ丘駅、10時13分三ツ境駅、10時49分瀬谷駅、11時15分大和駅着、中華料理店「日高屋」で昼食、12時19分大和駅出発、12時49分相模大塚駅、13時07分さがみ野駅、かしわ台駅東口13時20分、かしわ台駅西口13時33分、海老名駅に14時29分到着

かしわ台駅に戻りスーパー銭湯「こち湯」で入浴、かしわ台駅から大和駅に行き「王将」で夕食、「昭和通り炭焼酒場 純風」で反省会、そして解散

横浜駅から海老名駅まで歩いた歩数計の数字は約45000歩、約30kmになった。集合前と海老名駅以降の解散後も合わせると約47600歩だった。

費用については交通費と入浴費用合わせて約2000円、その他別途飲食費が発生した。

■旅の記録その2

相鉄線いずみ野線（二俣川～湘南台）の実施は2023年6月7日（水）の日帰り、その行程を以下に示す。

10時00分二俣川駅集合・出発、10時18分南万騎が原駅、10時43分緑園都市駅、11時18分弥生台駅、11時43分いずみ野駅の駅前の中華料理「れんげ食堂」で昼食、12時58分いずみ中央駅、13時17分ゆめが丘駅、13時47分湘南台駅に到着
小田急線で高座渋谷駅に出てスーパー銭湯「こち湯」で入浴、高座渋谷駅から座間駅に行き「まさのすけ本店」で夕食、そして解散

二俣川駅から湘南台駅までの営業距離は11.3km、その沿線を歩いた歩数計の数字は約23000歩、約15kmになった。集合前と解散後も合わせると25222歩だった。

費用については交通費と入浴費用合わせて約1850円、その他別途飲食費が発生した。